



題字 井口 文章  
再刊 第238号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞  
委員会

みんなで作る  
錦城高校新聞

(特集)全国高等学校総合文化祭  
優秀校東京公演



宮城県のゆるキャラ むすび丸  
全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演は、28年前から毎年、国立劇場で行われている公演です。文化祭のインターハイとも呼ばれる「全国高校総合文化祭」で演劇・日本音楽・郷土芸能3部門から選ばれた優秀校12校が、2日間にわたり国立劇場で演奏・演技を披露します。

# 伝える 国立劇場の夏

## 第28回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演特集

今年で28回目を迎えた全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演。この夏、みやぎ総文祭を飾った若者の力がこころで再び発揮された。

（本校編集室、昭和第一学園高校共同取材）

一音一音を大切に  
宮城県登米市にある佐沼高校の箏曲部は部員数5人で、

全国高等学校総合文化祭の出場はなんと16回目。優良賞も2回受賞している。そんな佐沼高校箏曲部で今回「虹」(作

門田さんが演奏した曲「乱」のリズムをもとに作られた独特なハーモニーの曲だ。リハーサルを終えた感想を聞くと「いつもの大会とは違う大きなステージで重みを感じた」と話す。普段の練習では、2人という少ない人数での演奏は

うだ。これからは、今回演奏した「虹」のように音の余韻を大切にしている曲をまた演奏したい、と門田さん。また、2人と5人では演奏できる曲も変わるの、色々な曲を演奏してみたい、とも話してくれた。

愛知県から来た日本福祉大学付属高等学校の伊藤敏祐くん(3年)、柴田葉奈さん(3年)は、海外や東日本大震災の被災地での公演もしている。

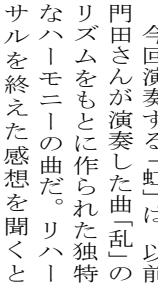
「楽鼓(らっこ)」の名を昔から引き継いできた本部活は、海外や東日本大震災の被災地での公演もしている。

今回の公演では共に困難を乗り越えて生まれる「絆」がテーマの「絆」と太鼓組曲「海濱」を乗り越えてきた思いを乗せて演奏する。見所はリズムが変化化する所と、全員が手を回す場面の3回目に「オー！」と叫ぶところだと紹介してくれた。

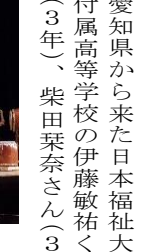
奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

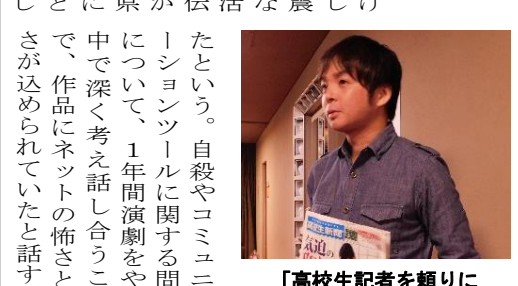
朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

## プロの記者に聞く東京公演



高校生の姿が印象的だと江戸川さん

完成度はプロ顔負け  
今回の東京公演に取材に来ていた朝日新聞東京本社文化課の記者江戸川夏樹さんに取材することができた。普段は演劇中心の取材をしていて、俳優や演出家に話を聞くことも多いという江戸川さん。東京公演はプロ顔負けの完成度だっ



「高校生記者を頼りにしています」

自分が楽しむだけでなく受け手がどう感じるかを大切にしていたそう。この部活は震災時に一時期部員がいなくなってしまう。それでも部活の伝統、そして日本音楽の伝統をつないできた、その話が印象的だったと語る。埼玉県秩父農工化学高校演劇部に取材するときは、高校生がどんな演劇をするのかに注目し

たという。自殺やコミュニケーションツールに関する問題について、1年間演劇をやる中で深く考え話し合うことで、作品にネットの怖さと良さが込められていたと話す。

国立劇場に取材に来ていた高校生新聞社の特派員記者の中田宗孝さんにも話を聞くことができた。高校生新聞社はプロの記者3人と高校生記者が10人。中田さんは記者としてここに勤めて3年目だ。高校生記者も学校生活が忙し

「高校生記者はプロと違い、気になったことをその場で直感で聞いてくれるのでとても頼りにしています」と中田さんは笑う。

日々の取材で心がけているのは高校生の目線を忘れないこと。高校生に取材をするときは「挨拶と礼儀が大事」「先輩と後輩の仲が良い」という一見単純な答えが多いという。しかしその言葉に至るまでの経緯まで細かく聞くと、違いが現れることが多い。それぞれ違うストーリーがある。それを引き出すのが役目です」と記者として仕事のコツを伝えてくれた。(湊・鶴)

この作品は舞台がSNS上のやりとりであることが一つのポイントだ。コミュニケーション

笑んだ。公演を終えた感想を聞くと「とても楽しかった。100%中の120%の出来栄でできた」と力強く語る。ひとりりや出来なかつた振り返る武田さん。人との絆の大事さを実感したという。「色々なものに支えられてきたから、こまごまやるのが出来ました」と話す武田さんの瞳には涙がたまっていた。「先輩になつたのでこのような劇を先輩とまた作り出したいです」とこれからについて語った。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

### 公演ニュース発行の経緯

8年前から公演ニュース発行のいきさつを昭和第一学園高校元教諭の松井孝二さんと、錦城高校元教諭の松井巖さんに聞いた。今年で第10号になる公演ニュースでは様々な人にスポットライトを当てている。両先生は「取材をする生徒にとってもいい経験になるし、取り上げられる方にとっても光が当たることでやりがいになるだろうと思います」と意義を語った。公演の裏方で活躍する人達に注目だ。



出し答へはすぐに「あ、あの感動を誰にも伝えたい！」その一方で次も頑張れるような気がした▼国立劇場で行われた全国総合文化祭東京公演。記録係として公演ニュースを作るために参加した私たちが錦城高校新聞委員会編集部に。朝早くから仕事を立て込み、大変なこともたくさんあったが、その分得るものも多くなり、とてもやりがいがある仕事だった。この貴重な経験を普段の取材や来年に活かしていきたい。(蘭)

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

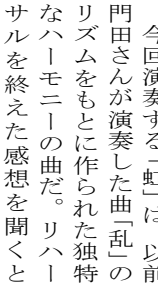
部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

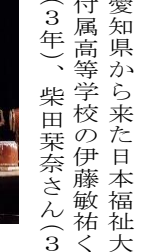
朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

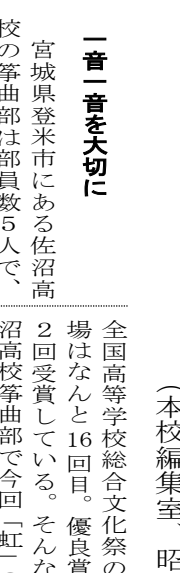
沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

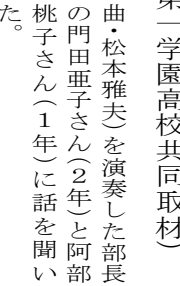
部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

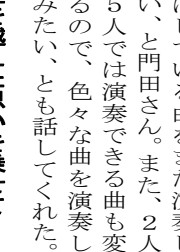
朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

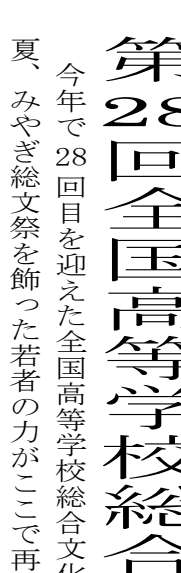
沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

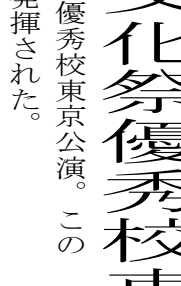
部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

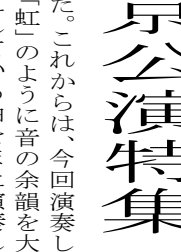
朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

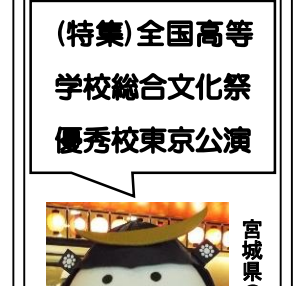
部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

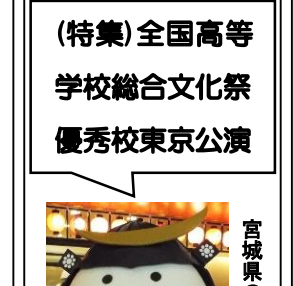
部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。

沖縄県から来た県立向陽高校は、童謡作「文化祭大作戦」より吉澤信吾潤色「HEAVY」。

この作品は文化祭のクラス劇で「ロミオとジュリエット」を

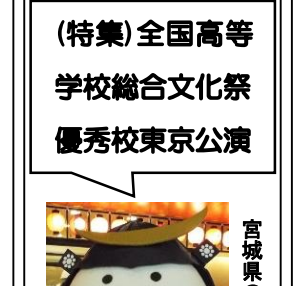
部長の武田龍之介くん(2年)に演劇のどんなところが楽しいか聞くと、仲間と協力し合えるところが好きだと答えてくれた。武田さんが1年生のとき、部員は1年生1人、3年生5人だった。その頃は公演にほとんど出陣しなかったが、練習がとて多くなって大変だったという。そのとき3年生に救われたそうで「今度は自分が先輩として後輩を助けてあげたい」と話す。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。

朝9時、慌ただしく準備が進むなか楽屋に入る。話し合いを済ませるとその後は取材、取材、取材の嵐。ほっと一息を付く間もなく「あ、リハールはじまってる……」急いで劇場に向かい、大きな太鼓が鳴り響くなか、シャッターを切る。しかし写真にはなかなか撮れない。リハールが終わると、ようやく撮影が完了したと思ったら今度は部長さんに取材だ。急いで質問事項をメモして取材場所へ向かう。「でも、さっきの太鼓の発表、本当にかっこよかったな……」同じ高校生とは思えないくらい迫力があった。部長さんには日々の活動に対する熱い思いを聞くことができた。



1日目OPは町田工業・第四商業・日本美術・川村学園の4校合同フラダンス



伝統を受け継ぐ佐沼高校



見どころは全員が「オー！」と叫ぶところ

上演を振り返り、「完璧ではなかったが、練習の成果が出し切れた」と柴田さん。伊藤くんは「最高の演奏ができ、自分たちの伝えたいことが伝えられた」と息を弾ませた。

奥深さに苦悩することもあるが、伝統を壊さないように演じたい」と語った。